

第1章「日本語教育とは」 ワークシート

学籍番号 _____ 氏名 _____

- 日本語教育、国語教育、英語教育を比較してみましょう。「日本語教育」はわかる範囲で、もしくは想像して書いてみましょう。

	日本語教育	国語教育	英語教育
目標言語 (学習する言語)			
学習環境 (学校など)			
学習する期間			
教授言語 (教師が教えるときに使う言語)			
教育の目的			
学習者の年齢			
学習者の母語			
1クラスの人数			
教師は教える言語の母語話者(ネイティブ)か			
教師に資格は必要か			

学籍番号 _____ 氏名 _____

○ JFL と JSL の違いについて、具体的な例を挙げながら比較してみましょう。

	JFL	JSL
学習者 ・ 学習動機は？ ・ といった機関で日本語を学べる？		
教師 ・ 教師の日本語力は？ ・ 教師の母語は学習者の母語と同じ？ ・ といった機関で教える？		
日本語学習の必要性 ・ 日本語は生活に必要？ ・ 日本語が話せないと何か影響がある？		
日本語の学習機会 ・ 日本語を学ぶ機会は？ ・ 使用できる教材や会話練習の相手は？		

第2章「日本語学習者とは」 ワークシート②

学籍番号 _____ 氏名 _____

- 技能実習制度について調べてみましょう。

制度の目的と内容	
職種	
実習生の出身国	
問題点	

学籍番号 _____ 氏名 _____

○ 「日本語能力試験(JLPT)」と「日本留学試験(EJU)」について調べ、比較してみましょう。

	日本語能力試験	日本留学試験
主催者		
試験の目的 (要約でよい)		
受験資格		
開始年		
レベル認定		
試験科目		
実施回数(1年に)		
直近の受験者数		
国内受験者数と 海外受験者数の比率		
尺度得点の採用の有無		
受験料		

第5章「コースをデザインしよう」 ワークシート①

学籍番号 _____ 氏名 _____

○ それぞれの機関について、考えられることを書き出し、比較してみましょう。

機関	大学	日本語学校	地域の日本語教室	(考えましょう)
教育方針				
目標				
設備				
教材				
教え方				

学籍番号 _____ 氏名 _____

○教科書を分析してみましょう。

教科書名：		
第1課	目標	
	学習項目	
	構成	
第2課	目標	
	学習項目	
	構成	
第3課	目標	
	学習項目	
	構成	

学籍番号 _____ 氏名 _____

(1) コースデザインを考える前に、どんな学習者について考えましょう。

クラスの人数	
出身地の構成	
学習者のニーズ	
学習者のレディネス	

(2) グループでコースを設計しましょう。

目 標	
評価方法 (テスト)	
教材	
第 1 回	
第 2 回	
第 3 回	
第 4 回	
第 5 回	
第 6 回	
第 7 回	
第 8 回	
第 9 回	
第 10 回	
第 11 回	
第 12 回	
第 13 回	
第 14 回	
第 15 回	

学籍番号 _____ 氏名 _____

○直接法と間接法のどちらが効果的でしょうか。その長所と短所を考えてみましょう。

a) 直接法		b) 間接法	
その理由			
他の人の意見			
直接法			
長所		短所	
間接法			
長所		短所	

学籍番号 _____ 氏名 _____

○ CLIL の実践例について調べてみましょう。

テーマ

対象者（年齢・日本語レベル・実施した国など）

内容（概略）

おもしろいと思った点

学籍番号 _____ 氏名 _____

○教科書を細かく観察してみましょう。

教科書名	
学習レベル	
対象として想定されている学習者	
教科書のねらい・目的・ゴールなど	
課の数	全 課
1つの課を終えるのにかかる想定時間	
1冊終了するのにかかる想定時間	
媒介語の使用	有 ・ 無 (使用言語)
語彙数・漢字数 (記載があれば)	
付属の副教材	
その他、気がついた特徴	

学籍番号 _____ 氏名 _____

○動詞を活用してみましょう。

—ない	ナイ形 (未然形)					
—ます	マス形 (連用形)					
言いきり	辞書形 (終止形・連体形)	天下る	ポチる	ググる	ダべる	デコる
—ば	バ形・命令形 (仮定形・命令形)					
—う	意向形 (未然形)					
動詞のグループ (活用型：動詞の活用の種類) 正しいものに○をしてください。		I・II・III	I・II・III	I・II・III	I・II・III	I・II・III

○わかったことをまとめましょう。

学籍番号 _____ 氏名 _____

- (1) 次のロールプレイの説明・指示を、初中級レベルの学習者がわかるように考えて書いてください。まず、誰とも相談しないで一人で考えましょう。

客：明日の友達の結婚式のために昨日デパートで服を購入したが、購入した服を家で確認したところ、サイズが違っていた。もう一度店に行き、服の交換を依頼する。

- (2) (1)の説明・指示文をグループで見せ合ってください。アイデアを出し合って、グループで説明・指示文を考えて書いてください。

- (3) 「やさになちチェッカー」と「リーディングチュウ太」でチェックしてください。

■やさになちチェッカー

語彙	点	漢字	点	硬さ	点
文法	点	長さ	点		

■リーディングチュウ太

単語レベル	★とてもやさしい / ★★やさしい / ★★★ふつう
	★★★★すこし難しい / ★★★★★難しい

- (4) やさしい日本語にするには、どこを直せばいいか考えて、(2)の説明・指示文を書き直してみよう。

学籍番号 _____ 氏名 _____

○2つの会話例を見て、どこでどのような意味交渉が起こっているか、考えてみましょう。

【場面 A】 理想の結婚相手について話し合う場面での学習者間のやりとり

- ① ナディア : ブライアンさんは、どんな人と結婚したいですか。
- ② ブライアン : うーん、優しいと、作るがとてもいい人が結婚したいです。
- ③ ナディア : はいはい、いいですね。優しい、料理を作ります、いいね。
- ④ ブライアン : ナディアさんは？
- ⑤ ナディア : あ、あの、優しくてスポーツが上手でイケメンと結婚したいです。
- ⑥ ブライアン : え、スポーツがじょ、上手、あと何。あの、何言いましたか。
- ⑦ ナディア : イケメン。
- ⑧ ブライアン : イケメンは何。
- ⑨ ナディア : イケメンは、えーっ、ハンサムでクールな。
- ⑩ ブライアン : ああ、分かった、分かった。私はイケメンです (笑)

【場面 B】 理想の結婚相手について話す場面での教師と学習者のやりとり

- ① 教師 : リーさんは、どんな人と結婚したいですか。
- ② リー : まず、背が高いと、サッカーが好きです。
- ③ 教師 : 背が高くて、サッカーが好きな人がいいですか。
- ④ リー : はい。そして、おか、おか、おかん高いじゃない。だいじょぶです。
- ⑤ 教師 : おかん。え、なんですか。
- ⑥ リー : お、おねか、おねか？お、えー。
- ⑦ 教師 : おかね？
- ⑧ リー : そう、お金、高いじゃない、大丈夫。
- ⑨ 教師 : ああ、お金持ちじゃなくても大丈夫ですね。
- ⑩ リー : お金持ち、rich man、じゃない。はいはい、そうです。大丈夫です。

学籍番号 _____ 氏名 _____

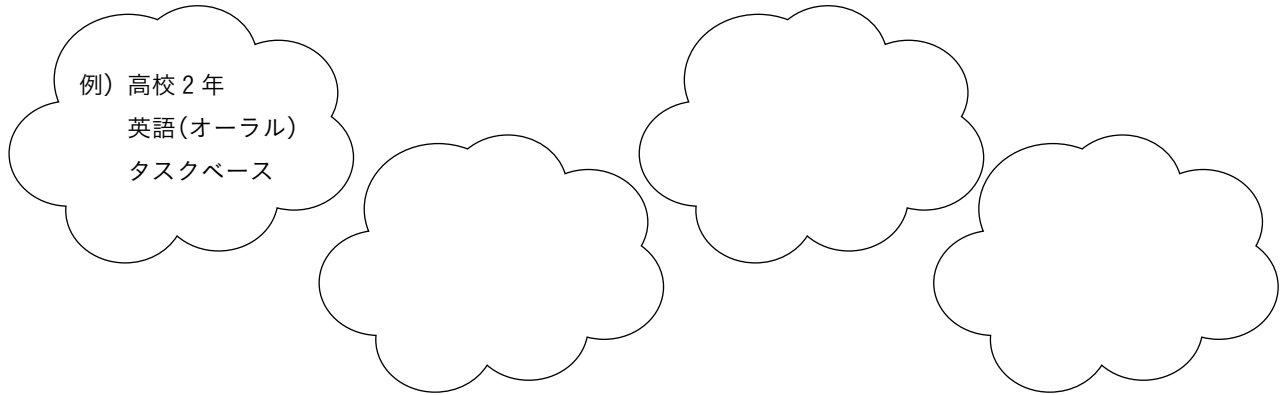
- 出身地が異なる人とペアを組み、方言が通じず、意味交渉行っている会話を作成してみましょう。

学籍番号 _____ 氏名 _____

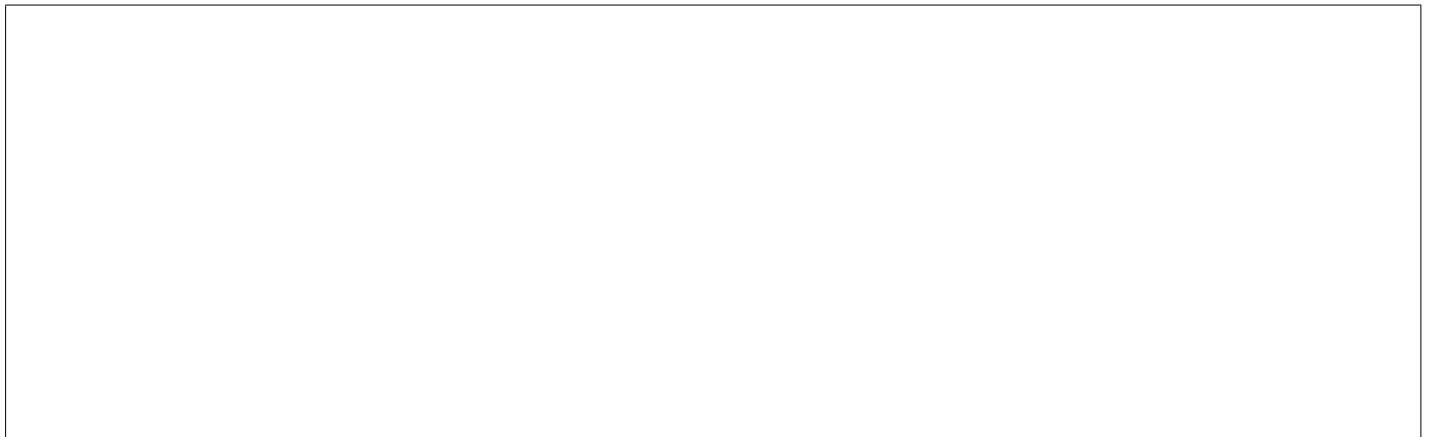
○以下の質問について、周りの人やグループで話してみましょう。

(1) 今まで受けてきた外国語の授業は「文型ベース」と「タスクベース」のどちらのアプローチでしたか。

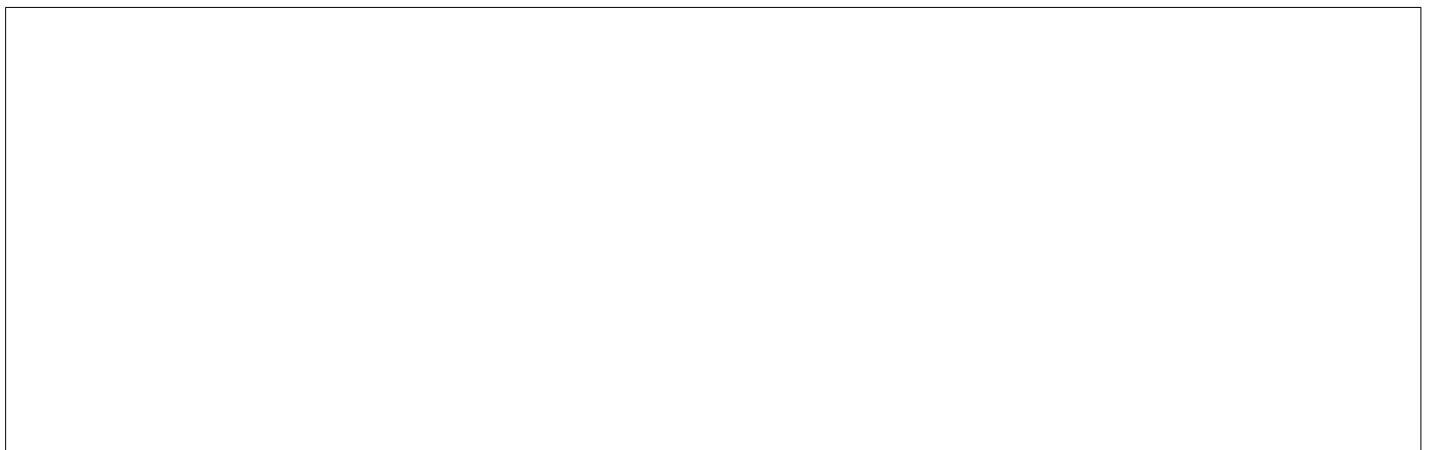
例) 高校2年
英語(オーラル)
タスクベース



(2) 図1と図4の教案はそれぞれどちらのアプローチに沿って作成されたと思いますか。各アプローチの違いがどんな部分に表れているか図1と図4の教案を比較しながら意見を出し合しましょう。



(3) 二つのアプローチはそれぞれ、どのような学習者や目的・ニーズに合うと思いますか。なぜそう思うのか、理由も説明しましょう。



学籍番号 _____ 氏名 _____

■授業観察シート

日時	教師		クラス
学習者 (国籍人数)			
授業の内容			
使用教科書・ 副教材・ 教具など			
時間・ 授業の流れ	教師の行動や様子	学習者の行動や様子	気づき・感じたこと

学籍番号 _____ 氏名 _____

■教案シート

日時		対象者	
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 		
教師の目標			
新出語彙			
時間	教師	学習者	板書・メモ

学籍番号 _____ 氏名 _____

■模擬授業／観察シート

1. クラスルーム運営

(よくできた○ まあまあできた△ できなかった×)

- 1.1 授業中すべきことを学習者は常に理解していた。 ()
- 1.2 教師による指示がはっきりしていた。 ()
- 1.3 教師は学習者の理解をチェックしていた。 ()
- 1.4 教師が話し過ぎなかった。 ()
- 1.5 誤用の訂正やフィードバックが正しくなされた。 ()
- 1.6 日本語による真のコミュニケーションがあった。 ()
- 1.7 学習者が積極的に参加していた。 ()
- 1.8 _____ ()

2. タスク分析

(よくできた○ まあまあできた△ できなかった×)

- 2.1 教室外のコミュニケーションに必要な技術を練習した。 ()
- 2.2 活動の目的を学習者にはっきりと把握させていた。 ()
- 2.3 活動の難易度が学習者にとって適切であった。 ()
- 2.4 学習者がどの程度成功したか失敗したか判断できるような、評価の部分が授業中にあった。 ()
- 2.5 能力差があっても学習者全員が参加できる活動であった。 ()
- 2.6 _____ ()

3. 教室内インターアクション

(授業中何回起きたかを「正」の字を使って数えてみよう)

- 3.1 教師が質問をした ()
- 3.2 学習者が質問をした ()
- 3.3 学習者同士でのやりとりがあった。 ()
- 3.4 教師が学習項目の文法や語彙の意味を説明した。 ()
- 3.5 教師が肯定的な言葉がけをした。 ()
- 3.6 沈黙及び困惑の時間があった。 ()
- 3.7 _____ ()

学籍番号 _____ 氏名 _____

■模擬授業／振り返りシート

月 日 内容： _____

活動（時間）	教師の行動	学習者の様子	気づき

○感想